

パティスリーマルヤ



[創業年] 1865年(慶応元年)
 [売場面積] 19.8㎡(6坪)
 [事業従事者数] 3.0人
 [営業時間] 8:00~20:00
 [定休日] 不定休

[商品構成]

・たまふゆゆ	40.0%
・王様のプリン	30.0%
・ロールケーキ	20.0%
・その他	10.0%

[店舗所在地] 新潟県村上市金屋 2250
 [URL・SNS] https://x.com/libido_maruya

[経営理念]

“スイーツは表現方法のひとつ”がモットー。
 スイーツを通してお客様に楽しんでもらう。エンターテインメントのひとつがスイーツである

地域資源を活かした洋菓子で話題発信

[お店の概要]

新潟県村上市の慶応1(1865年)創業の老舗菓子店。今から50年前、5代目の現代表の時に洋菓子にシフトした。現在は、息子夫妻と、妻の一家で店を切り盛りしている。

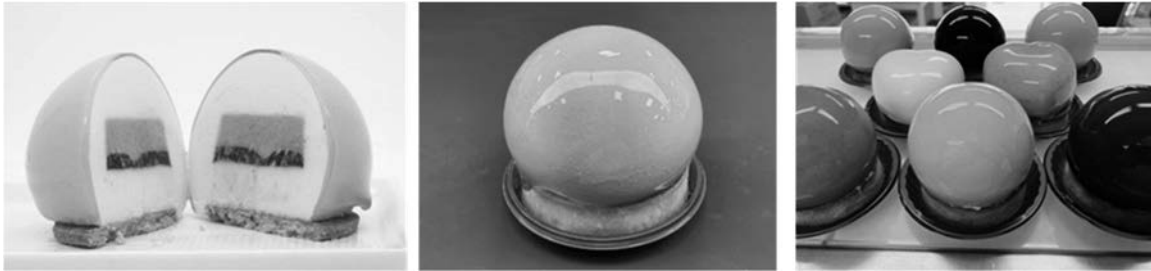
同店は、「スイーツは表現方法のひとつ」をコンセプトにしているが、地域資源を活用した話題性のある洋菓子を打ち出している。

「王様のプリン」と名づけたプリンは、ジャージー牛の牛乳を使用。丸い瓶をパンダに見立て、“ジャージ”姿のパンダのキャラクターで販売。百貨店の催事「全国プリン博覧会」で新潟代表に選ばれるなど、同店を支える人気商品になっている。

パンダが可愛い
 「王様のプリン」



2022年に打ち出したのが、「たまふゆゆ」。きっかけは、地元のあらかわ地区まちづくり協議会主催のスイーツコンテスト。地元の方の実現してほしいケーキの絵を地元のお店が実現するコンテストで、審査員の同店の息子が、地元の荒川の清流の青いイメージのまん丸なケーキの絵に注目。それを形にしたのが「たまふゆゆ」だ。透光ったターコズブルーのゼリーで表面を覆ったムースケーキは、こまめな情報発信とともに、話題となり、新しい同店の人気商品となっている。



人気の「たまふゆゆ」

【お店の経営ノウハウ】

「スイーツは表現方法のひとつ」のコンセプト通り、まずは話題を優先させる。現在、話題の主な発信者は、X（旧・twitter）で10,000人以上のフォロワーをかかえる息子だ。発信する情報は、菓子に関わらず、新潟県のJ1チーム、「アルビレックス新潟」など地域ネタで多彩。同店は、催事にも力をいれており、Xの本人に会えると、フォロワーがわざわざ会いに来て、購入するなど効果を上げている。

一見、話題づくりが優先しているように見えるが、その背後にスイーツを作るパティシエの高い技術がある。ひとつの話題の背後に、素材選びから仕上げまで、根気のいる作業をこなす菓子職人の姿勢がある。そこに共感して、ではと実際に菓子を味わってみると、期待を裏切ることなく「確かにうまい！」と、より感動が高まる。Xでの情報発信は、実際に感動を与えてくれるスイーツとの出会いのきっかけになっている。



X（旧 twitter）にて催事やアルビレックス応援などを積極発信

